



# 今井小だより

横浜市立今井小学校  
令和4年5月31日  
学校だより 6月号

学校教育目標 : か が や い て い る 子 「自分大好き！今井大好き！」

## 「ほめること しかること」 子どもへの効果的な関わり方とは？

副校長 大嶽 賢司

このところ急激に暑くなりましたが、梅雨入りが近づいているのか、はっきりしない天気の日も増えています。学校敷地内の樹木や草花は、雨の合間に差す日の光を逃してなるものかと言わんばかりに、青々とした葉を茂らせ、美しい花を咲かせています。また、晴天時の空の鮮やかな深い青色は、夏の到来が近づいていることを予感させてくれます。

ところで、私たちは、「晴天」を「天気が良い」、「雨天」を「天気が悪い」ということがあります。植物にとっての晴天や雨天は、「良い・悪い」という視点ではなく、どちらもともに自らの生長になくってはならない大事な条件です。雨ばかり降っては、植物は根が腐ってしまい、日照不足で育ちませんし、晴れの日ばかりでは水分が不足して枯れてしまいます。つまり、「晴れが良くて雨が悪い」わけではなく、どちらもちょうどよいバランスで繰り返されることで、根や茎は太くなり、幹や枝は大きくなり、葉は勢いよく生い茂るのです。植物の生長には晴天と雨天のように真逆のものが必要なのです。

一方、動物にとっての真逆なものといえば、「快感」と「苦痛」です。多くの動物は、本能的に快感を求め、苦痛を避けるようになっていくそうです。そして、人間はというと、動物である以上、同じような傾向にあるようです。もちろん、心身の成長途上にある子どもたちも同様です。しかし、快感を求め、苦痛を避けるだけでは健全な成長にはつながらないことは、皆さんもよくお分かりのことでしょう。子どもの心身の成長には、保護者や地域の方々をはじめ、我々職員も含めて大変多くの大人が関わることになりませんが、子どもの健全な成長を促すには、我々大人の大事な、そして、効果的な関わり方があるのです。

それは、先ほど植物の生長には真逆のものが必要であると述べたように、子どもたちの心身の成長にも真逆のものが必要であるということです。そして、子どもたちにとって真逆のもの、つまり「快感」と「苦痛」にあたるのが、「ほめること」と「しかること」です。良い行いに対して「ほめる」ことで子どもを良い気持ちにさせ、もっと良い行いができるように促すことは大事です。しかし、ほめるばかりでは甘えやわがママが出て、必ずしもよい心が育つとは限りませんし、ほめられることに慣れすぎると、ほめられないと不満に思ったり、他人の評価ばかり気にしたりする子になってしまいます。また、悪い行いに対して「しかる」ことで子どもに辛い思いをさせ、再び悪い行いをしないように諭すことも大事ですが、しかるばかりでは気持ちがすさんだりいじけたりして、良い心は育ちませんし、何に対しても自信がもてない子どもに育つ危険性もあるのです。

子どもたちは、1日に何回かほめられたりしかられたりする機会があります。そのバランスを子どもの育成に関わる職員、保護者、地域の方々がちょうどよくとることで、子どもたちの心身の成長を促していくことができます。そのためには、学校と家庭、地域が協力し合い、より多くの眼で子どもたちの成長を見守っていくことが大切です。コロナ禍で教育活動に制約がある中ですが、職員一丸となって子どもたちを支援し、その成長のために全力を尽くしてまいります。保護者の皆様、地域の皆様、ご支援とご理解をどうぞよろしくお願いいたします。